

子供の体力向上に向けて ～学校で、家庭で、地域で～

愛媛県教育委員会

学校総数(公立) 468校	小学校 317校 中学校・中等教育学校 135校 特別支援学校 7校
全児童生徒数 113,818名	小学校 72,475名 中学校・中等教育学校 37,831名 特別支援学校 658名

えひめ子どもの体力向上プラン

●本県の目標

子どもの体力を上昇傾向に転じさせ、昭和60年頃の水準への回復を目指す。

●提 言

- す：すべての子どもがスポーツに親しめる環境を（二極化への対応）
- こ：子どもの頃から望ましい生活習慣を（早寝・早起き・朝ごはん）
- や：やってみよう続けてみようとして子どもが思う個に応じた指導を（調査結果を指導に生かす）
- か：家庭や地域で運動習慣・生活習慣の見直しを（家庭や地域との連携）

【子どもの体力向上に向けた具体的方策】

- 運動が苦手な子どもたちへの重点的な支援
- 運動習慣・生活習慣の改善を粘り強くサポート
- 地域のスポーツ関係団体やスポーツクラブ等と連携した取組の推進
- 家庭における運動習慣の意識付け
- 子どもの体力向上に向けた取組の検証

愛媛県では、平成20年度愛媛県子どもの体力向上推進委員会において「えひめ子どもの体力向上プラン」を策定し、子供の体力向上に向けた取組を推進している。

具体的方策は以下のとおりである。



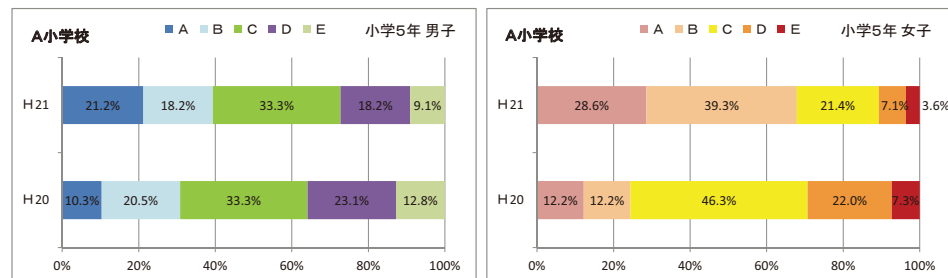
教員の 授業力向上・ 授業改善

1 小学校体育専科教員の配置（平成19年度～）



これまで県内小学校24校に、32名の教諭を体育専科として配置し、各配置校において特色ある取組を展開するとともに、授業研究会の開催や参考資料の作成等を行っている。授業においては、専門性を生かした「分かる授業・考える授業・伸びる授業」を展開し、チームティーチングによる授業を行うことで、学級担任の授業力向上にもつながっている。また、体育的活動のコーディネーターとして、校内外の連絡調整を行い、運動やスポーツの活発化や運動の日常化を図っている。

配置校では、新体力テストの総合評価がD及びEの児童の減少等の成果も表れている。



2 授業研究会（平成21年度～）

小学校体育専科教員配置校のうち3校において、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた体育科授業を公開するとともに、該当校における体力向上の取組を発表し、研究協議及び学識経験者による指導助言をとおして、「授業力（児童生徒理解力・教材解釈力・授業構成力・授業実践力）」の向上を図っている。

幼稚園から高等学校まで校種を越えて参加を募っており、系統性を踏まえた授業の展開について共通理解が図られつつある。

年度	研究テーマ
21	体づくり運動「習得と活用の具現化」
22	器械運動「器械運動につながる動きの研究」
23	ボール運動「教材研究と効果的なチームティーチング」
24	陸上運動「単元構成・単元計画の立案」
25	学級担任主導によるチームティーチングの研究

3 実技研修

(1) 愛媛県子どもの体力向上指導者研修会

独立行政法人教員研修センター主催「子どもの体力向上指導者養成研修」受講者が講師となり、体育科授業改善や子供の体力向上を図るための手法を指導し、受講者は、各学校において研修内容を伝達し、授業に生かしている。

(2) 子どもの体力向上指導者養成講習会

各市町主催の実技を中心とした講習会を幼・小・中学校の教職員対象に開催し、具体的な指導法の研修を行っている。体力向上を図るためには、低年齢期における指導の充実が必要であると考え、低学年担当教員や体育科授業の指導を苦手と感じている教職員の参加に重点を置いている。

4 資料作成・教材開発

小学校体育専科教員による体育科授業に活用できる資料や各学校の体育的活動の参考になる資料を作成して配布（リーフレット・実践事例集）するとともに、県のホームページからも閲覧できるようにしており、各学校で活用している。



仲間・時間・空間

「えひめ子どもスポーツITスタジアム」(平成18年度～)

ホームページを通じて楽しく競い合えるIT環境をつくることにより、児童の運動に対する興味関心を高め、楽しみながら継続的に運動に取り組ませ、体力の向上とスポーツへの参加意識の高揚を図るとともに、児童の体力向上に対する県民の意識の高揚を図ることを目的としている。

「チャレンジ部門」「ポイント獲得部門」「創作部門」を設定し、主に、学級を参加単位として実施し、日頃運動に親しむ機会の少ない児童が仲間と一緒に参加できるよう工夫している。年度末の表彰式では、表彰状及びトロフィーの授与とともに、1位校による発表を盛大に行っている。



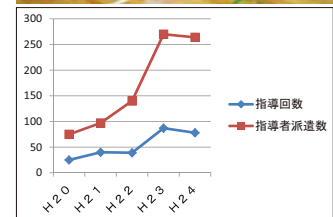
年度	参加学校数	参加率	参加延べ人数
21	166校/356校	46.6%	33,607人
22	192校/349校	55.0%	35,318人
23	313校/343校	91.3%	44,098人
24	286校/332校	86.1%	41,939人

様々な学校の実情を踏まえ、ランキング形式の活動だけでなく、日々の取組を称揚する活動や短い期間でも達成感を味わえるような方法を加える等、毎年バージョンアップして、多くの学校が意欲的に参加できる工夫をしている。

学校・家庭・
地域との連携**1 小学生スポーツ活動指導者派遣（平成19年度～）**

小学生の体育・スポーツ活動に、専門的な知識や技能を有する大学生を派遣し、児童の体力・運動能力の向上とスポーツへの参加意識の高揚を図り、将来の競技力向上につなげることを目的としている。実施主体は、愛媛大学総合型地域スポーツクラブとし、現役大学生が陸上運動、水泳、器械運動、ゲーム及びボール運動等小学校体育実技全般の指導を行っている。

児童へのきめ細かな指導が可能になるとともに、将来教員を目指している大学生自身にとっても実践的な研修の機会となり、年々そのニーズは高まっている。

**2 外部人材を活用した特色ある取組（平成25年度～）**

地域の様々な機関等が有する人的資源等を活用し、各学校の子供の体力に関する課題を改善するため、体育・保健体育の授業及び授業以外の運動・スポーツ活動において計画的・継続的な活動を行い、子供の体力の向上や運動の二極化の解消を進め、運動の日常化を図ることを目的としている。



モデル校19校において、授業のアシスタントやスポーツ活動の指導者として、各学校のニーズに応じた人材を派遣している。外部人材の活用により、複数の指導者による安全に配慮した活動ができるとともに、より専門的な指導・個に応じたきめ細かな指導が可能となり、子供の「もっとやってみたい」といった運動への参加意欲が高まっている。

3 トップアスリートによる講演会及びスポーツ教室（平成25年度～）

体を動かすことの楽しさや正しい生活習慣を身に付けることの大切さ、スポーツのすばらしさ等を子供たちに伝え、トップアスリートの経験と卓越した技術をもとに実技指導を行い、子供が主体的にスポーツに親しむ態度や習慣を身に付けさせることを目的としている。

4 地域スポーツ人材の活用実践支援事業（平成20年度～）

教員数の減少や高齢化の進展、生徒の指導に対するニーズが高度で専門的になっていること等が要因となり、多くの学校で運動部活動の指導者不足が課題となっていることを受け、学校において地域のスポーツ人材を有効かつ適切に活用している。

特に、中学校7校、高等学校3校をモデル実践校に指定し、外部指導者が部活動顧問教諭と連携を深めながら、技術指導のみならず、教育的な見地から深く生徒にかかわり、一層充実した部活動の指導を行うことができるよう、年間720時間（9カ月）を上限として指導できる事業に取り組んでいる。

愛顔(えがお)あふれる愛媛県

愛媛県の子供の体力は、全国とほぼ同水準であるが、プランに掲げている目標に向かって、日常的に運動に親しむ児童生徒の育成を目指し、学校・家庭・地域が一体となった事業を展開していきたい。

3つの間から5つの間で体力向上